



ふるさとの風だより

防災特集号
No.2

第二地区まちづくり協議会会誌

令和7年9月



私たち第二地区は、津波到達予測区域からは外れているものの、海岸部に非常に近い地域です。

そのため、南海トラフ地震による大津波が発生した際には、地区にお住まいの方々だけでなく、海岸部から多くの方がこの第二地区へ避難してくることが予想されます。

このような状況に対応するため、第二地区だけでなく、隣接する地域の方々とも協力して避難所を開設できる体制を整えることが重要です。

また、住民同士が日頃から顔の見える関係を築き、安心して協力し合える地域にしておく必要もあります。

私たちはまだまだ十分な力があるとは言えません。しかし、何もしなければ、いざという時に多くの方の命や財産が失われることにつながりかねません。

そこで、私たちは久保中学校を訓練会場とし、お隣の神戸まちづくり協議会の皆さんと協働して、5月17日に避難所設置訓練を実施し、140名もの方が参加してくださいました。



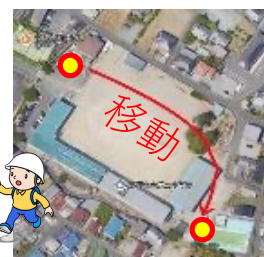
避難所開設には様々な準備が必要です。今回の訓練では、特に災害時に避難された方の受付、体育館内の避難スペースのレイアウト、下水道を活用したマンホールトイレの設置、そして発電機の稼働といった、避難所運営の核となる項目を中心に、参加者の皆さんに体験していただきました。

この防災特集号第2号は、その訓練の様子をまとめたものです。

避難所の開設は、基本的にそこに避難されてきた方々が主体となって行います。そして、その担い手はあなたかもしれません。実際に訓練に参加したつもりで、ぜひ最後までお読みいただければ幸いです。

地震自動解錠BOX が移動しました (震度5弱以上で自動解錠)

前号でご案内した「地震自動解錠BOX」の場所が、公民館前から第二小学校体育館入り口の防災倉庫横に移動しました。ぜひ心にお留め置きください。



今回の神戸地区との合同防災訓練について

今回の合同訓練では、お互いの顔が見える関係づくりの一步につなげ、避難者自らが行う「避難所の初期開設」の訓練を体験して頂く

ことを目的に4つの訓練が選定されました。

①非常用電源の設置 ②災害用トイレの設置 ③避難所の受付 ④体育館レイアウト

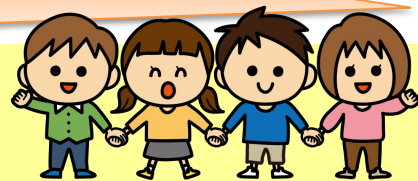
どれも大切な訓練で、内容を絞って考えられたものです。

成功する訓練だけでなく、住民が「知る」「備える」「行動する」ことが大切です。

重 要

台風などと違って、地震などの大災害は、予め準備をすることができません。

避難所開設は、避難者自らが開設することになっています。



開設の仕方

自動解錠ボックスを開け、防災倉庫の鍵を取り出し、倉庫を開けると「**初期開設**」ボックスや「**受付**」「**レイアウト**」等の備品ボックスがあります。※初期開設に協力して頂ける避難者が、集い協力して避難所を開設します。

1. 非常用電源の設置訓練



各学校(避難所)の松阪市防災倉庫に非常用電源(発電機)や投光器が完備されており、夜間対応や電源確保の準備がされていました。

訓練では、発電機(カセットガス2本用)を実際に稼働させ、投光器の組み立て接続を行った。(各学校の防災倉庫により、機種が異なっているそうです。稼働時間は、カセットガス2本で1時間程度・・・松阪市職員談) 備蓄燃料が切れると稼働が、出来なくなるという課題があることに気付きました。

2. 災害用トイレの設置訓練

各学校(避難所)には、災害用のマンホールトイレの設備があるが、今回雨天で中止。体育館内でトイレやデントの組み立て、便器の設置等を訓練しました。

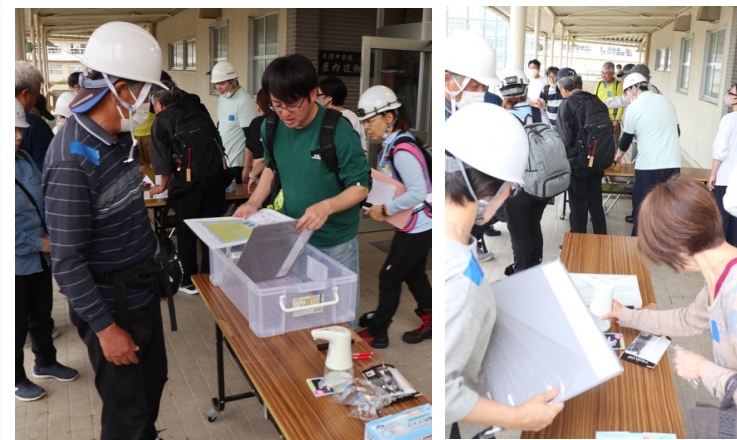
松阪市は上下水道が破損した場合についても想定し、水を流さず排泄出来る「携帯用トイレ(凝固剤タイプ)」の備蓄も進めているとのこと。

携帯用トイレは、家庭でも準備が必要で、今回の訓練では省略されていましたが、もっと聞きたかったという参加者の声が多くありました。

避難所のトイレは、全員で正しく使用することが感染予防につながり、ストレスなく使用できる状態に保つことが大切です。男子トイレと女子トイレは、1:3の割合で設置することが望ましいことを学びました。



3. 避難所受付の訓練



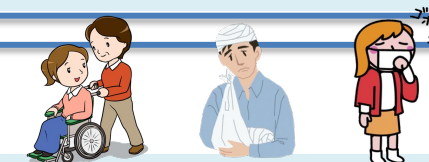
避難所を開設するに当たり、避難者の受付を実際に設置しました。

手順書では、受付を開始する前に**体育館の安全を確認することが最優先**で、危険があれば、体育館の使用は不可と判断します。

安全が確認できれば、スピーディに避難所受付を設置します。

- ①受付前に避難者の体調を確認します。
- ②受付は健常者と体調不良者に分けます。
- ③避難者名簿に記入してもらいます。

名簿は、安否確認や食料等の調達、避難者数を把握するための資料になります。



4. 体育館レイアウトの訓練

避難者が何人来るか、想像が付かない中、レイアウト訓練では、避難者を安全に区分けするための訓練を行いました。まずは、体育館内に通路を確保する手順で、通路の幅は、車椅子が通ることを考慮し、1m20cm幅が推奨とされていることを学びました。

さらに、被災者の利用スペースも限られたスペースの中で、どのエリアにどのような方に利用して頂くか、初期段階では、臨機応変な対応になると思われます。また健常者と体調不良者が混在すると、感染の危険もあり、部屋を分ける等、工夫が必要であり、落ち着いたら避難者数や特徴に合った区分けを決めていくことも必要であると学びました。





今回の訓練参加者の意見から見えてきた 課題と今後の対応と取り組みについて

項	今回の訓練で見えてきた課題	課題に対する今度の対応と取り組み
1	家庭での簡易トイレの準備と使用方法	家庭用の簡易トイレマニュアルを全世帯に配布
2	非常用電源は、燃料がないと長時間使えない	太陽光バッテリーの重要性から予算化して独自に購入
3	防災知識があった上で訓練する大切さ	住民を対象とした防災講習会の定期的な開催
4	地震災害時の避難所開設の難しさ	訓練や事前討議を通じ、平時に避難所開設手順の改版
5	地域住民による積極的な防災への参画	地域住民が防災に関心を持ち、防災スキルアップ向上

今回見えてきた課題に対する対応や防災への取り組みを推進していきます。

第二地区 自治会部会 防災ワーキンググループ



今後の防災訓練と講習会の計画について

いつ発生してもおかしくないと言われる巨大地震。これまでに経験したことがないような大雨など、自然災害はいつやってきてもおかしくありません。いざという時にどう行動すれば良いのか、まずは「知る」ことから始めましょう。

災害にそなえる 「知る」「備える」「行動する」

ご自身やご家族、そしてご近所の住民同士で「災害にそなえる」のマニュアルに目を通していただき、日頃から「そなえる」ことを意識してください。

南海トラフ地震は風水害とは異なる災害です。まずはご自身の命を守ることが大切です。

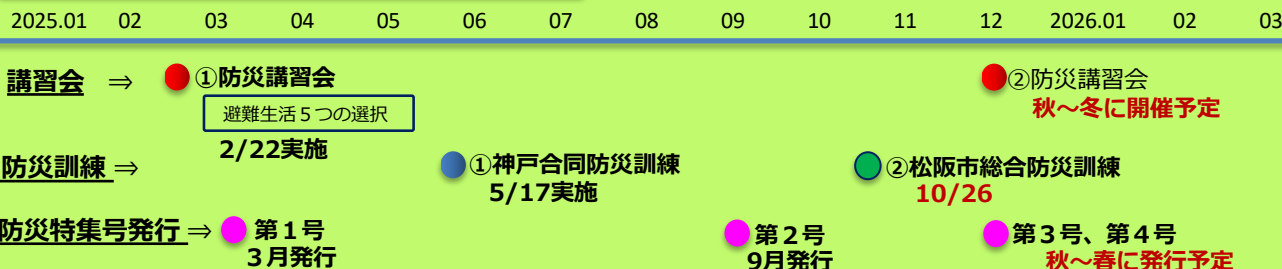
大地震の発生を前提とした防災訓練と講習会を今後も計画していきます。

講習会は、地域住民の方に関心を持って頂ける題材の選定。今後は受講者の参加実績や防災スキルを見える化するなど仕組みづくりを検討し、計画していきますので、奮ってご参加ください。



防災訓練・防災講習会の実績と計画

日程が決まり次第、詳細を回覧板等でお知らせします。



●発行 第二地区まちづくり協議会

〒515-0033 松阪市垣鼻町633 Tel. 0598-20-8402

<http://dai2.life.coocan.jp/>

